



家を出る頃は雨が上がり、愛知池でも水面はとても静かで、ツバメが飛び交っていたのですが、突然強い風が吹いて雨が水面をたたき、様相が一変。長くは続かなかったのもそのまま観察会を行いました。雲が厚く、時折降る雨で暗くて見にくかったのですが涼しい中をみよし市との境近くまで行き、その間に風倒木や折れた枝が見られました。



**カラスビ
シャク**
サトイ
モ科の多
年草。別
名「ハン
ゲ」ハン
ゲショウ

は別の植物。紐のようなものを先端につけた仏炎包を柄杓に見立てた名前。根茎を生薬の半夏として利用。



ツククサ 早朝に花（花弁は3枚）を開き午後にはしぼんでしまいますが、雨に濡れ青々としていました。



ヤマトシジミ オレンジ色をしたベニシジミとともに身近なシジミチョウです。カタバミに直径 0.5mm ほどの卵を産みます。



ヒルガオ 池の岸壁でたくさん咲いています。アサガオは昼にはしぼみませんが、この花は日中いっぱい咲き続けます。在来種の薬用植物で日当たりのよい場所を好み地下茎が増えます。



アオメアブ 複眼は光を反射して緑色に見えます。たくましい脚で、他の昆虫を抱き抱えるようにして捕まえて体液を吸う肉食性のムシヒキアブの一種です。



アサマイチモンジ

初めて発見されたのが浅間山だったのが名前の由来です。日本固有種で本州に分布しています。食草はスイカズラです。





ヨモギクキ
マルズイフ
シ ヨモギ
の茎でよく
見かける虫
瘤です。ヨモ
ギマルフシ
ミバエの幼
(赤い矢印)
がこの中
で生活し
ています。



ツチイナゴ幼虫 体長は
5mm ほどで孵化したばかり
で、秋までに大きく育ちその
まま越冬します。親は 6 月終わり
頃に産卵します。



シロオビトリノフンダマシ
体長は 7mm ほどでスキの
葉裏で脚を縮めてじっとして
いました。夜行性で、草の間に
水平に円網を張って獲物を待
ちます。



アブラ
ゼミの
羽化殻
6 月
末頃か
らニイ
ニゼ

ミの羽化殻が見つかるようになり、7 月に入ってアブラゼミの羽化殻が増えてきました。鳴き声がもうすぐ聞かれるようになるでしょう。



アケビコノ
ハの幼虫
頭は上ぼ
方です。腹
部中程には
眼状紋があ
り、驚くと
頭を体の下
に折り曲げ

るようにして眼状紋を目立たせませす。アケビの葉を食べて成長します。



アカハネナガウンカ

熱帯性のイネの害虫で、国内では越冬できないため、毎年風に乗って大陸からやってきます。大きな翅は風に乗るのに都合がよ形なのです。

植物 アカツメクサ、ハルシャギク、ヒメジョオン、キバナノマツバニンジン、メリケンムグラ、ツユクサ、アレチマツヨイグサ、ユウゲショウ、カラスビシャク、ワルナスビ実、ヒルガオ、イシミカワ実、アメリカノウゼンカズラ、セイヨウニンジンボク、クズ、カラスウリ実、オニドコロ雄花、ヤマノイモ花蕾、ミツバアケビ実、ノブドウ、アオツツラフジ、クチナシと実、テイカカズラ実が多い、サワフタギ実、ナンキンハゼ実、ヤマハギ、リョウブ、アカメガシワ実、アジサイ、ネムノキ、シャシャンボ実、イスノキ実、

昆虫 キタキチョウ、ツバメシジミ、ルリシジミ、ヤマトシジミ、ジャノメチョウ、ヒメウラナミジャノメ、アサマイチモンジ、ツマグロヒョウモン雄、アケビコノハ幼虫、テングイラガ幼虫、オオミノガみの虫、ツチイナゴ幼虫、ホシササキリ幼虫、ショウリョウバッタ幼虫、カマキリ幼虫、オオモモブトハムシ、オジロアシナガゾウムシ、ヒメヒゲナガガミキリ、ニイニゼミ(声)、アブラゼミ羽化殻、ウンカの一種、アオバハゴロモ、アミガサハゴロモ、ベッコウハゴロモ、オオヨコバイ、アカハネナガウンカ、キマダラカメムシ、オオホシカメムシ、シオカラトンボ雌、オオシオカラトンボ雌、クロイトトンボ、ハラビロトンボ雌、スズメバチの一種、ハラナガツチバチの一種、オオモンクロクモバチ、アオメアブ、ホソヒラタアブ、

蜘蛛 ジョロウグモ・ナガコガネグモ幼体、アシナガグモ、ササグモ、ワキグロサツノミダマシ、シロオビトリノフンダマシ、エビグモの一種、カラカニグモ、
鳥、その他 ツバメ多数、メジロ、ウグイス声、スズメ、ハシボソガラス、カワウ、カルガモ、ゴイサギ、貝(イセノナミマイマイ、コハクオナジマイマイ他)、ナメクジ、ミミズ類、ダンゴムシ、キシヤヤスデ類死体、カメの卵食われる、菌(クリイロイグチモドキ、コナカブリテングタケ、ツノマタタケ、ツルタケダマシ、ドクツルタケ、ナギナタダケ、ベニウスタケ他)、虫瘤(ヨモギクキマルズイフシ、ヨモギハエボシフシ、ヨモギクキワタフシ)

次回8月10日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円